

国立研究開発法人 農業生物資源研究所

平成27年度及び第3期中期目標期間の 業務運営及び主な研究成果 (ポイント説明)

H28年6月2日

中期目標への対応

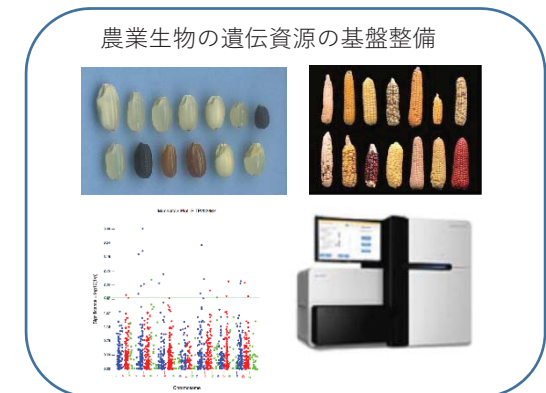
ミッション

農業分野の生命科学の研究開発を進め、農業技術の革新や新たな生物産業の創出を目指す



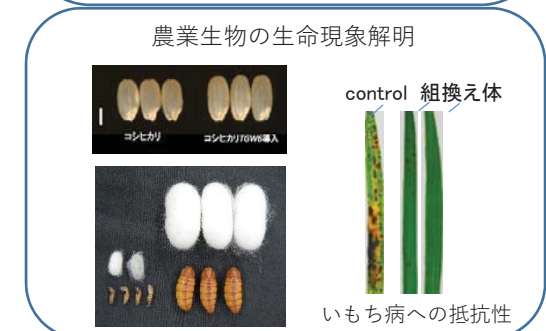
1. 画期的な農作物や家畜等の開発を支える研究基盤の整備

- (1) 農業生物遺伝資源の充実化と活用の強化
(中課題数: 1)
- (2) 農業生物のゲノムリソース・情報基盤の整備・高度化
(中課題数: 5)



2. 農業生物に飛躍的な機能向上をもたらすための生命現象の解明と利用技術の開発

- (1) 農作物や家畜等の生産性向上に資する生物機能の解明
(中課題数: 4)
- (2) 農作物や家畜などの生物機能の高度発揮に向けた生物間相互作用の解明と利用技術の開発
(中課題数: 6)

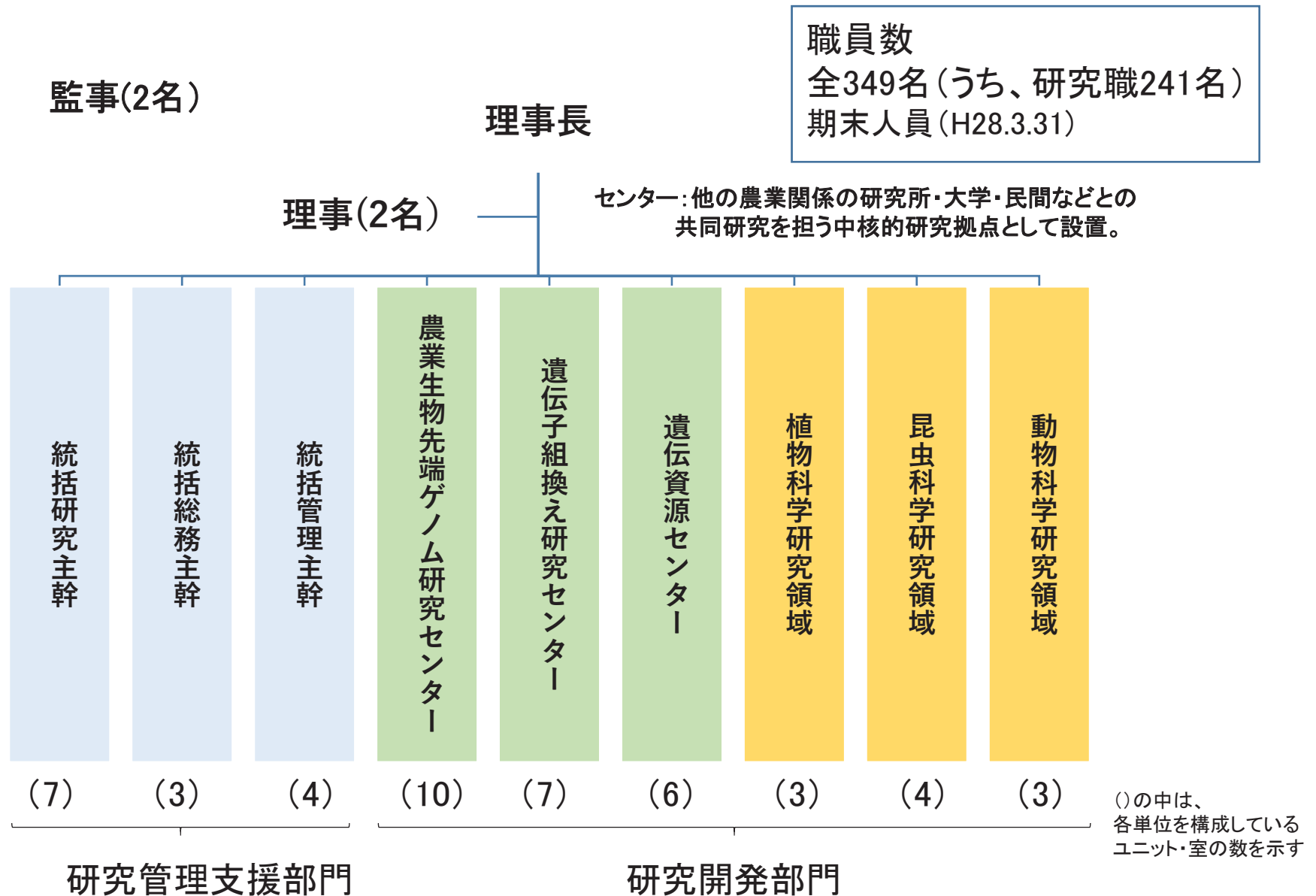


3. 新たな生物産業の創出に向けた生物機能の利用技術の開発

(中課題数: 5)

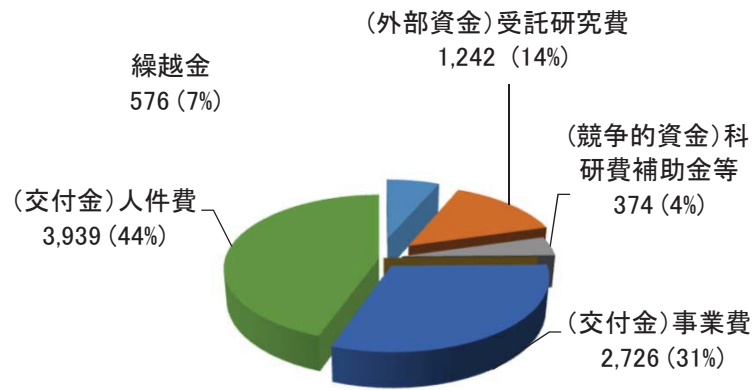


生物研の運営体制

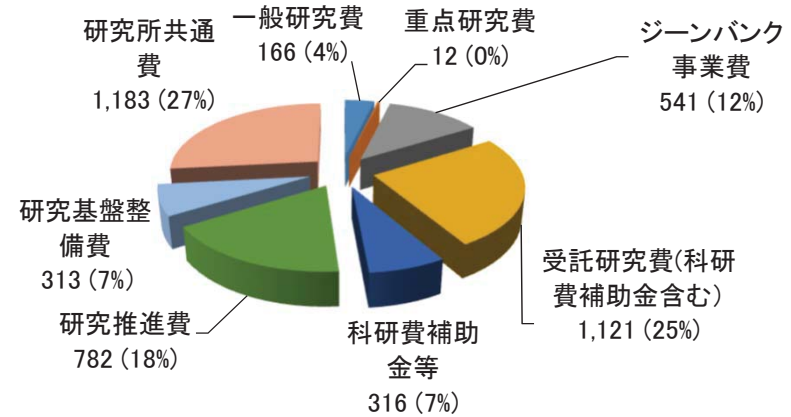


予算

H27年度

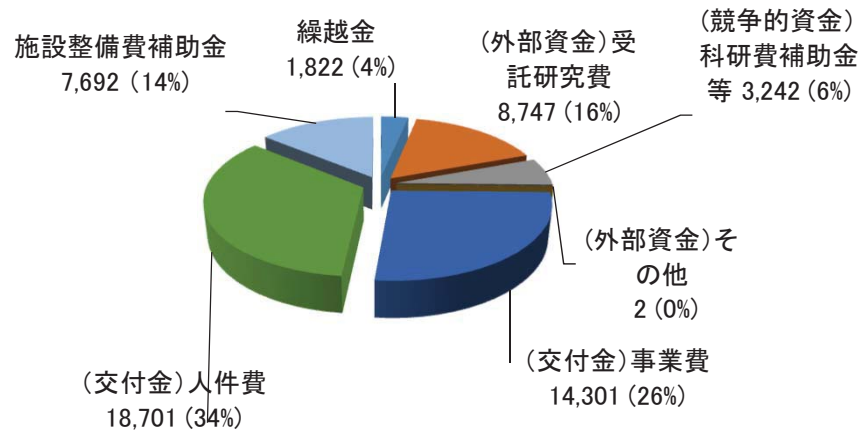


収入額(8,857百万円)

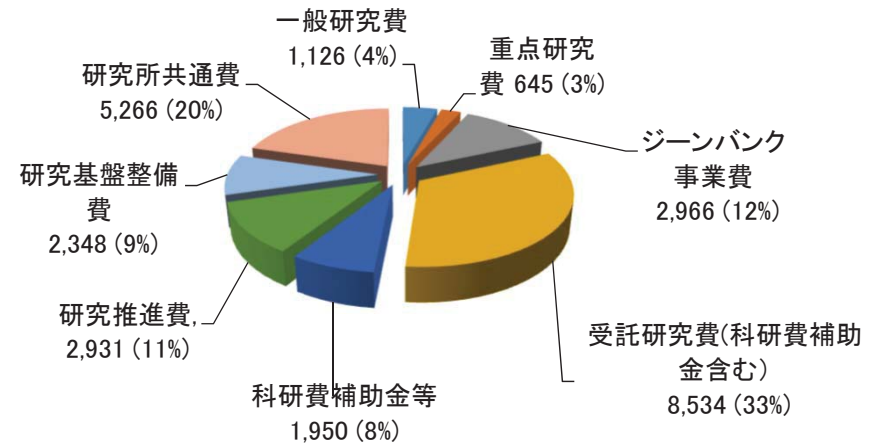


研究資金の配分額 (4,433百万円)

第3期



収入額(54,507百万円)



研究資金の配分額 (25,764百万円)

業務運営に対する評価

* 26年度までは主務大臣評価。
27年度および第3期は自己評価。

項目	H23	H24	H25	H26	第3期（見込）	H27	第3期
第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置							
1 経費の削減	A	A	A	C	C	C	C
2 評価・点検の実施と反映	A	A	A	B	B	B	B
3 研究資源の効率的利用及び充実・高度化	A	A	A	B	B	B	B
4 研究支援部門の効率化及び充実・高度化	A	A	A	B	B	B	B
5 産学官連携、協力の促進・強化	A	A	A	B	B	B	B
6 海外機関及び国際機関等との連携の促進・強化	A	A	A	B	B	B	B
第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置							
1 試験及び研究並びに調査							
画期的な農作物や家畜などの開発を支える研究基盤の整備（分野1）							
大課題（1）農業生物資源の充実と活用の強化	A	A	A	A	B	A	B
大課題（2）農業生産のゲノムリソース・情報基盤の整備・高度化	A	A	A	A	A	A	A
農業生物に飛躍的な機能向上をもたらすための生命現象の解明と利用技術の開発（分野2）							
大課題（1）農作物や家畜等の生産性向上に資する生物機能の解明	A	A	A	B	B	B	B
大課題（2）農作物や家畜等の生物機能の高度発揮に向けた生物間相互作用の解明と利用技術の開発	A	A	A	B	B	B	B
新たな生物産業の創出に向けた生物機能の利用技術の開発（分野3）	A	S	S	A	A	A	A
2 行政部局との連携の強化	A	A	A	B	B	B	B
3 研究成果の公表、普及の促進	A	A	A	B	B	B	B
4 専門分野を活かしたその他の社会貢献	A	A	A	B	B	B	B
第3 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画	A	A	A	B	B	B	B
第4 短期借入金の限度額	—	—	—	—	—	—	—
第5 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画	—	—	—	B	B	—	B
第6 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとする時は、その計画	—	—	—	—	—	—	—
第7 余剰金の使途	—	—	—	—	—	—	—
第8 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等							
1 施設及び設備に関する計画	A	A	A	B	B	B	B
2 人事に関する計画	A	A	A	B	B	B	B
3 法令遵守など内部統制の充実・強化	A	A	B	C	C	C	C
4 環境対策・安全管理の推進	A	A	A	B	B	B	B
5 積立金の処分に関する事項	A	A	A	B	B	B	B

不適正経理

農業生物のゲノム解読等

組換えカイコの
実用化等

不適正経理等

評価区分の標準は、H23~25年度は「A」、平成26年~27年度及び第3期中期目標期間は「B」である。

【研究所のガバナンス強化に対する取り組み】

・短期業績評価制度

→期首および期末における評価者とのきめ細かい面談

・若手育成プログラム

→担当指導者と管理職による研究計画から公表までの丁寧な指導

年度初めの研究計画書の作成・ヒアリング、年度末の成果報告会の実施

モーニングレクチャーへの参加(月1回)

女性任期付職員の出産に伴う任期の延長

・理事長との意見交換会

→ユニット単位で年1回

【ゲノム育種研究などで国際連携・国内支援】

・国際機関との連携

→イネ、コムギ、オオムギ、ブタ、昆虫等農業生物のゲノム解読コンソーシアムのメンバーとして参画

特にコムギにおいては、6B染色体の高度解析に貢献

→ITPGR(食料及び農業のための植物遺伝資源に関する国際条約)に定める情報提供

我が国はH26年度に加入。それに伴う国内措置として、生物研でジーンバンクで保有する

遺伝資源の約3万点を登録(世界第6位の登録数)

→IRRI(国際イネ研究所)とは深根性について、CIAT(コロンビア)とはWRKY45導入系の

大規模生育調査などで共同研究を実施

・国内のゲノム育種支援

→H26年度にバーチャル組織として「作物ゲノム育種研究センター」の設立

作物ゲノム育種の効率化・高度化を法人統合より前から先行し、都道府県の育種を支援

【遺伝子組換えに関するパブリック・アクセプタンス(PA)の活動】

・遺伝子組換え作物・カイコの実用化に向けた一般説明会など広報活動の強化

第3期における主要研究成果

主要研究成果：

各年度の主な研究成果の中から、特に新産業の創出につながる成果

中課題番号	成 果 名	年度	分 類	追跡調査*
1-11	オオムギ完全長 c DNA24,783配列をデータベースから公開	(23年度)	知的貢献	A評価
1-23	イネの干ばつ耐性を高める深根性遺伝子の特定	(25年度)	知的貢献 農業生産	A評価
1-24	ブタの椎骨数遺伝子の単離と遺伝子診断を用いた枝肉生産技術	(24年度)	技術開発 農業生産	A評価
2-26	簡単に使えて、きれいに治せる絆創膏型人工皮膚の開発	(27年度)	技術開発 生物産業	-
3-02	肉眼で判別できるカイコの遺伝子組換えマーカーの開発	(24年度)	技術開発	B評価
3-02	遺伝子組換えカイコの第一種使用等としての隔離試験飼育の開始	(26年度)	生物産業	
3-04	香粧用素材として天然高分子量セリシンを利用する技術の開発	(25年度)	生物産業	A評価
3-04	クモ糸を紡ぐカイコの実用品種化に成功	(26年度)	技術開発	-
3-05	改変ペプチド・ポリマー複合体を用いた抗菌繊維加工技術の開発	(23年度)	生物産業	B評価

*27年度に行った追跡調査の結果

A判定：経済活動などで活用されている成果、B判定：近い将来に経済活動などで活用が見込まれる成果。